

クラブ内およびアカデミーにおけるコンプライアンス事案の調査結果と今後の再発防止策に関する記者会見

開催日時：2026年5月28日(木) 16:00～

場所：アビスパ福岡本社

登壇者：アビスパ福岡株式会社 代表取締役社長 西野 努

本日の会見は、一昨日 Jリーグより発表がありました前監督によるハラスメント事案に対する懲罰に対して、クラブの見解と、それにまつわる発覚した事象についてご報告をさせていただきます。

本来であれば、会見で報告するような事象ではないものも含まれておりますが、これを機に、このクラブが真に市民クラブとして開かれ、そしてより愛される存在になるため、あえて報告させていただきたいと思っております。

本日の目的は、あくまでクラブの未来を語るためのものとしておりますので、ご理解いただければと思います。

まずはトップチームの前監督のハラスメント事案についての見解と謝罪となります。

一昨日、Jリーグより懲罰の通知を受けました。懲罰内容はクラブに対して罰金 100 万円、およびけん責でございます。

まずこの度は、ハラスメントおよび不適切な内容によって被害を受けられた皆様、ご家族、関係者の皆様、まずはその皆様に深いお詫びと謝罪の言葉をクラブの代表として申し上げます。深い傷を負わせてしまい、誠に申し訳ありません。

そして、いつもアビスパ福岡を応援し、支えてくださっているファン・サポーター、パートナー、自治体の皆様、そして選手、スタッフ、アカデミーの選手たち、保護者の皆様をはじめとする全ての関係者の皆様に、多大なる心配とご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

クラブとして、この度の Jリーグの裁定を真摯に受け止め、かつ他の発覚した案件につきましても、この度つまびらかにすることといたしました。今後はガバナンスの刷新に全力を挙げ、二度とこのような事案を起こさないよう努めてまいります。本日は今回クラブとして受け取った調査の結果、判明した事実とそれに対する対処ならびに今後の再発防止策について、これから説明させていただきたいと思っております。

< 詳細説明 >

前監督のハラスメント調査をきっかけに、実態をより正確に把握するために、クラブ内、そしてアカデミー内、保護者へのアンケート形式による全件調査を実施いたしました。

それに加え、私自身がクラブスタッフと直接面談を行い、さらに第三者弁護士を交えた個別ヒアリングも行ってあります。

トップチームならびにクラブ内の調査報告書については、Jリーグに提出済みとなっております。

アカデミーについては、4 月頭に中間報告を提出し、最終報告書は 5 月末を予定しております。

改めて、トップチームの前監督のハラスメント事象についてですが、Jリーグからの発表には「経営陣による前監督への牽制が不足していた」という表現がありました。一つの要因として重く受け止めております。一方で、それだけではないとも感じております。結果的に、組織全体として機能することが重要でしたので、個人に頼る部分と、組織としてしっかりと制度、システムを作る部分と、両方の両立が大事だと考えております。今シーズンに

関しては、個人の部分と組織としての体制を作る部分の両面で対策を実施しておりますし、継続して検討しております。

個としては、経営者である私が、トップチームのトレーニンググラウンドやクラブハウスに週に数回顔出ししております。そこでトレーニングを見学したり、ミーティングをオブザーブさせてもらったり、そして選手、スタッフとコミュニケーションを取らせていただいております。また、強化担当者と経営陣とのミーティングも定期的を実施しております。ですので、チーム内の空気感みたいなものは、私だけでなく経営としてしっかり把握しているというふうに考えております。

組織の制度としては、外部の第三者相談窓口、これは今までもあったのですが、周知徹底されておらずでした。ですので、外部の相談者窓口を改めて周知徹底することと、内部の相談窓口も加えて設定し、周知しております。外部の弁護士さんによる第三者窓口は、ハラスメントかどうかを判断される役割だと思っておりますが、クラブ内ではその手前で相談できる窓口を今回新たに設定しました。また、設備としては、ミーティングルームへのカメラ設置も検討中でございます。そして、トップチーム向けのハラスメント研修も、すでに3月にJリーグにより実施済みとなっておりますし、翌シーズンに関してもトップチーム、選手、スタッフを含めて研修計画を策定し、実施する予定です。クラブ全体に関わる再発防止策については後ほどまとめて説明させていただきますが、取り急ぎJリーグから発表がありましたトップチームの通知に関しましては以上となります。

続いて、クラブ内、アカデミー内での事象を報告させていただきます。先ほど申し上げました全件調査の結果、クラブ内、アカデミー内でもコンプライアンス案件が発覚しました。クラブ内におきましては、セクシャルハラスメント1件。また、第三者弁護士による調査ではハラスメントには該当しないとされたものの、クラブとして不適切な言動が複数認められると判断した事象が1件、計2件ありました。それぞれに対し、会社としての懲戒処分および厳重注意を行っております。

アカデミーについて、チーム運営上、不適切な対応や事象が認められました。それぞれについて説明いたします。

「消費期限切れの食品の提供」

中学生カテゴリー(U-15)の遠征時に、補食をスーパーでチームで購入し、購入した翌日に選手に配布した際、選手から消費期限切れであるという指摘を受けました。特に体調に不良を訴えた選手はいませんでした。この対策としては、各チームで補食管理責任者(主にメディカルスタッフとなりますが)を決めて、その管理運営をすることとしております。

「脳しんとうの疑いがある選手に対しての不十分・不適切な対処」

試合中に頭を強く打った選手に対し、その日、そのタイミングでドクターならびにトレーナーが不在であった事情がありました。本来であれば病院に連れて行って診察をすべきだったのを、そのままバスに乗せて選手をチームと一緒に帰すことができました。帰った後の翌日からはプロトコルに従い、ケア、リハビリを実施し、問題なくその後回復してチームに復帰しております。

「海外遠征時の集団食中毒の報告漏れ」

2025年の2月、U-11チームのタイ遠征時に、帰国後17名中14名の選手が食中毒の症状を発症しました。

病院にかかり、その後練習を休むということがありました。1週間後には全員復帰しておりますが、結果的に保護者説明会での保護者からの指摘で、クラブの経営がそれを知ることとなりました。

「クラブ内施設におけるウェアの紛失」

主にこのクラブハウスなんですけれども、アカデミーの活動中にグラウンド横の公共のスペースに荷物を置くことがあるのですが、そこでのトレーニングウェア等の紛失、もしくは盗難の可能性もあるということが、アカデミーの保護者にアンケートしたところ、125件のアンケートから15件「なくなっています」「盗まれています」、といった自主申告がございました。

「選手進路指導にあたっての手続きの不備、および配慮不足」

中学生年代から高校生年代への昇格の決定プロセスにおいて、クラブが昇格を決定するタイミングが遅れ、結果的に昇格しない選手に対し、他クラブへのセレクションや練習参加の機会を逸するという状況を作っていました。

「制限速度超過運転ならびに後部座席のシートベルト着用義務不徹底」

クラブには選手を乗せて移動する車両が3台ありますが、2024年3月から2026年2月末までの2年間、時速120キロを超える速度で走行した回数が延べ回数で108回ございました。ドライブレコーダーの記録をもとに確認してもらいました。また、日常における後部座席、マイクロバス等の後部座席におけるシートベルトの着用の徹底も十分ではないことが判明しました。この制限速度超過に関しては、運転していたとされる8名のアカデミースタッフについては、戒告処分とさせていただいております。加えて、こうした案件が発生しましたので、アカデミースタッフ全員には厳重注意を課すこととさせていただきました。

以上が今回判明した、クラブ内のハラスメント事象およびアカデミーにおける不適切な案件と対応となります。子どもの安心・安全に直結する、選手の安心・安全に直結する事項であるために、Jリーグへの最終報告に先んじて、本日この場で具体的な報告をさせてもらっております。

今後の再発防止策についてとなります。クラブ全体としては、コンプライアンス対策委員会を編成し、3月から月に1回委員会を開いております。社長直轄の諮問機関として、弁護士先生そして専門家に入っていただいて、コンプライアンス関係の意思決定のサポートをしていただいております。

社内規定としてハラスメント防止規定を新設いたしました。先月、2026年4月の定時取締役会で承認済みとなっております。先ほど申し上げましたように、ハラスメントの通報窓口は外部のもの、そして内部のものを新設して周知しています。また、職場改善ボックスという、いわゆる意見箱というようなものもございましたが、そこを改めてリニューアルしてスタッフに通知し、いつでも意見を経営に伝えられるような仕組みを再整備しました。

そして、パルスサーベイの実施。これは社員、スタッフ、そしてアカデミーのスタッフも、トップチームのスタッフも含め、月に1回心身ともに健全で仕事ができているかというサーベイを月に1回実施することにして、今月より始めております。

その他、社用車もありますので、安全運転管理規定を、これは既存のものがございますが、実施の徹底というものを周知させてもらっています。これはまだ未実施ですが、セーフガーディングスタッフ、いわゆる産業カウンセリングの資格等をお持ちの方に、アカデミー、トップチーム、そして社内にパートタイムになると思っております、

何かあればいつでも相談できるスタッフを配置したいというふうに考えております。

トップチームに関しては、雁の巣のクラブハウスに、こちらミーティングルームへのカメラの設置を検討しております。クラブ内に関しては、各種の研修をすることは当たり前として、懲戒もしくは嚴重注意したスタッフに対しての定期的な面談を実施しようと思っております。

アカデミーについては、すでに3月以降も多数の研修を実施しております。Jリーグのハラスメント研修、交通安全教室、脳しんとう講習、アンガーマネジメント研修、これは6月の予定です。また、2026/27シーズンに関しても、以上の研修に加えてセーフガーディング研修等を予定しております。また、アカデミーに関しては、最終報告書が届いた後に、改めて保護者に対しての説明会を実施する予定となっております。

再発防止策としては、クラブ全体のもの、そして3つのカテゴリーに対するものを、実施してきたもの、そしてこれから実施するものは以上となっております。こうした再発防止策を整えることは、再発防止の第一歩にすぎないとは思っております。ガバナンスの刷新は仕組みだけでなく、継続してやり続けなければいけないと思っております。ですので、こうした形だけの管理ではなくて、経営者である私自身がこれからも積極的に社員、現場のスタッフの中に入っていき、一人ひとりの声をしっかりと聞き、耳を傾け、対話を続けていかなければいけないと思っております。そうした積み重ねの先に、ハラスメントを許さない、本当の意味での風通しの良い組織が生まれると思っております。そこを私が責任を持って作っていきたいというふうに思っております。

そして、ファン・サポーター、パートナーの皆様、地域の皆様、福岡の地域の皆様に、「アビスパは自分たちの誇りだ」と心の底から言っていただけるよう、アビスパ福岡に関わる皆様に二度とこのような心配をお掛けしないよう、健全で透明性の高いクラブ経営を徹底してまいりたいと思っております。

今回のご報告は、クラブの今置かれている環境を鑑みてさせていただきました。通常時であれば、記者会見を開いて報告の必要のないものも含まれております。ですので、今後の対外的な報告のスタンダードにはならないとは思っておりますので、あえて今回限りであったということをご理解いただければというふうに思います。私からの報告は以上となります。

<質疑応答>

(メディア)すでに1事案は周知のことではあったと思うんですが、このクラブ内での事案と、アカデミーのこの安全管理の不備の事案、発覚の経緯と言いますか、どういった形で、外部からなのか内部からなのか、どういった形で知ることになったのか言える範囲で教えていただけますか。

(西野)クラブ内のものに関しては、匿名での通報です。アカデミーのものに関しては、アカデミー選手の保護者からの連絡がきっかけになっております。

(メディア)これをまとめてJリーグに出す時期というのはいつになるんでしょうか。

(西野)もうすでにトップチームのもの、クラブ内のものは4月の頭に提出済みであります。アカデミーのものだけが5月末に報告書が第三者弁護士の先生から上がってくる予定ですので、その後提出することになっております。

(メディア)ということは、今月中、来月、という形でしょうか。

(西野) 到着次第です。今月末に届けば、その日か6月1日かには提出することになります。

(メディア) 改めてなんですが、今回この新たな事案というのが見つかった上での社長の感想と言いますか、どういうお気持ちなのか教えていただけますか。

(西野) 難しい質問ですね。正直驚いた部分もたくさんあります。

(メディア) 改善のところで、大きなところで、今トップチームのミーティングルームにカメラの設置を、これはまだ決定ではないという。

(西野) いま、業者の方に来ていただいて、見積もりを出してもらっているところです。加えて、設置する上でもいくつか越えなければならないハードルがありますので。無断で設置はできませんし、あとは管理の方法をしっかりと検討しなければいけませんし、24時間撮るのか、どういうふうに撮るのか。今はその辺は柔軟にできるそうなんですけども、必要なところだけをいかに記録として残し、保管するかということに関して今検討しているところがあります。

(メディア) ミーティングルームの中での会話とか、そういったものが今回の事象について大きな要因につながっているところがあるとして、この辺りを記録する必要があるという認識の中でこういう設置にたどり着いたのかなと勝手に推測したりするんですが。

(西野) それが全てではないですけども、可能性のある場所であるという認識はしています。ミーティングルームと言いましても、チームミーティング、スタッフミーティング、そして強化スタッフの部屋、僕が使わせてもらってる小さな部屋もありますので、それに全部に置くのかとか、選ぶのかとか、その辺も含めて今検討しているところです。

(メディア) 先日発表されたJリーグの処分について、処分はなされたと思いますが、何日付の処分になりますでしょうか。処分は下されたということになりますでしょうか。

(西野) 発表が一昨日だったんですけども、それよりも以前に受け取っております。今はそれを、不服がある場合には申し立てする期間があるので、それをしなければ、クラブとして受理することになっております。

(メディア) 内部の相談窓口の設置について、これはもう設置しているということでしょうか。また周知しているということでしょうか。

(西野) はい、設置しています。外部の相談窓口はもともとありましたが、周知徹底されていなかったなので、改めて通知したということです。

(メディア) 他になにかこういう対策を特に重要視しているというところがあれば教えてください。

(西野) 個人としてできることと、会社として整備するところがあると思っています。あとは組織風土と言ってしま

えば一言で済んでしまうんですけども、やはり声を上げるシステムが整備されていなかったというのは事実としてであると僕は思ってるんですが、もう一步突っ込むと、声を上げる空気というか、上げての良い組織風土と云いますか、そうしたものはこれからもっと作っていかねばいけなというは今思ってるところですが、そのために何ができるかという一つ二つじゃないので、日常的なことですので、と思っています。

(メディア)速度超過の件は、この期間に処分したということで、この8人がそれぞれ運転したということですか。

(西野) はい。

(メディア)ウェアの盗難紛失の話がありました、これは継続調査事項となっているんですか。

(西野) 練習着の紛失盗難なんですけども、これ以上の調査はしておりません。と言いますのも、選手、保護者からの声は一旦受けましたが、それ以上の追求というよりは、予防する、起こらないようにする、ということに注力しておりますので、保護者の方にもそういう説明をさせてもらっています。

(メディア)この継続調査事案はまだ発表できることはないのでしょうか。

(西野) 最終的な報告があつてからになります。

(メディア)最後になるんですけど、この会見をやろうと思った心境や思いを。

(西野) 去年の暮れからの事象があり、それをきっかけに私が着任し、この半年未満ですけども、いろんなことを感じてきた中で、やはりJリーグの裁定も出ましたので、これを機会に、開かれたクラブとして、よりサポーターの方、街の方、スポンサーの皆様、メディアの皆様、しっかり外を向いて、今までもやってきていると思いますが、外を向いてちゃんと開示することは開示して、より愛される、そしてより大きくて強いクラブを作っていきたいという思いがありました。

やはり、まだ社内とか選手・チームスタッフの心の中にも何か引っかかりがあるような気がしますし、クラブ周辺の皆様からの声を聞いても、まだそういう不信感と言いますか、あれだけ大きなことがあったのでしょがないと思うんですけども、あると思いますので、それをなんとか2026/27シーズンに向けては期待をしていただき、実際にいまチームは良くなっておりますので。順位は順位ですけども、本当に良く成長していると思いますので、6月以降、新シーズンに向けての期待をしていただきたい。ですので、ここでは、今まであったネガティブなものと言いますか、疑念みたいなものも事実は事実として認め、クラブとして、そして理解していただき、そして6月以降は新たなチームを、チームの将来を応援していただきたい。そしてたくさんの人にスタジアムへ足を運んでいただきたいという思いがあります。

(メディア)再発防止策で、クラブハウスへ社長が出入りされるようになったのはいつからですか。今シーズン始まってすぐなのか、Jリーグのヒアリングが始まってからなのか？

(西野) 再発防止策目的ではないです。ただ、その機能もあるというのは理解しています。やはりチーム内の空気っていうのは、中に入ってみないと分からないこともたくさんありますし、たまに行っても分からないと思います。なので、できるだけ頻度を増やして様子を見に行く。それだけでも全然違うと思いますので。経営が練習

場に行ってるから抑止力があるかと言えば、あるかもしれないですけども、そこはそんなに、たぶん他のJクラブでも経営者そんなに練習場に出るイメージはないですけど。ですので、僕は見るのが好きですし、選手とチームと話すのが好きなので行きますけども、あくまでそれは一つの抑止力かもしれませんが、メインではないと思っています。

(メディア) 昨日発表されたJリーグの発表に7月に体制が変わった後に、そういう機会がなくなったことも要因だったんじゃないかという報告書が上がっています。それを受けてというよりは、もともと考えて？

(西野) もちろんです。もう1月最初はちょっと遠慮しましたけど、2月ぐらいからは結構頻繁に顔出せるようになったし、チームミーティングにも何の問題もなく入れるようになったので、そこは今回のJリーグの発表とは特に関係はないです。

(メディア) 最初の方と今のチームの変化はどう感じていますか？

(西野社長) 去年のチームを見ていないのですが、最初は監督もチームスタッフも苦労していました。ただ、チームがいい方向に向かっているというのは、この4か月実感しているので、そこはチームの近くを見ているし、結果もあります。

(メディア) 選手乗車車両というのはマイクロバスと考えていいですか。

(西野) マイクロバス2台と、10人乗りのバン1台の計3台です。

(メディア) 報告書の中での速度超過、例えば事故とかは起きていない？

(西野) 起きていません。

(メディア) こういう防止事案というのは他のクラブはされているのでしょうか。

(西野) 役割はクラブにいる時と違うので、規定規約はしっかりあると思います。ただそれをしっかりと日常の仕事や業務に落とし込んでいるかどうかはクラブによって様々ではないかと思います。憶測ですけども、選手の安全について報告が上がってきていなかったことについては、深刻に受け止めています。

(メディア) 速度超過の件で、今月部活動のバスで事故が起きていたり、安全運転というところでもすごく関心が高いのかなと思います。こうした事案というのはクラブとしてどのように受け止めて今回の発表になりましたでしょうか。

(西野) あのようなニュースが出る以前から、この事案が発覚した時から相当深刻に受け止めています。今クラブでは100キロ以上の移動を伴う遠征等、ある一定以上の時間を伴う移動に関しては、バスとドライバーをプロの方をお願いして頼むということも今検討しております。スタッフだけを責めることはできず、彼らも限られたリソースと時間で、アカデミーのチームの運営は仕事も多いですし、大変ですし、保護者とのコミュニケーションも相当時間を割かなければならないので。コミュニケーションの時間をあまり作れないと不安になって、クラブに

上がってきますので。彼らだけの責任ではないので。クラブを挙げてどこにお金を使うのかということも含めて今考えています。選手の安全性とか人権を守るところは何よりも優先されなければならないと思っています。

(メディア)あらゆるカテゴリーの移動中に起きたことでしょうか。

(西野)どのカテゴリーで何回というところまでの情報はまだつかめていません。

(メディア)全体として起きたという認識でしょうか。

(西野)そうとらえていただいてもいいと思います。

(メディア)この期間というのはドライブレコーダーの中に残されている記録という意味でしょうか。

(西野社長)その通りです。

(メディア)時速 120 キロ超の走行回数ということですが、高速道路ということによろしいですか。

(西野) はい、高速道路です。

(メディア)スタッフ 8 名というのは、この期間、回数は把握できていないと言いますが、運転されていたスタッフが 8 名いたということ。

(西野) 日付と車種は残っていますので、その日にその車を運転していたということは記録として残りますので、そこからです。

(メディア)全スタッフ 19 名に厳重注意との差は、ドライバーかどうか。

(西野) そうです。

(メディア) 最後にもう 1 点、遠征に関してはプロのドライバーではなく、今まではスタッフが運転していた。

(西野) はい。

(メディア)120 キロ超の走行回数のことですが、120 キロでカウントしているのは悪質性が高いところでその 120 キロを設定されていますか？

(西野) その 120 の設定が意図的なのか自動的に設定されてたのか、自動的に設定されてたかと僕は認識してません。

(メディア)設定されてるからそれで分かったということですか。

(西野)はい。

<終わりに>

本日はご足労いただきありがとうございました。今シーズン残り2試合となりました。西地区での順位は残念な結果となりましたが、間違いなくチームは成長しております。次のシーズンへの準備も着々と進めております。

残りのホームでの1試合、ぜひたくさんの方々に来ていただいて応援していただきたいですし、来シーズンの開幕以降も、より多くの方々にスタジアムへ足を運んでいただけるよう良い準備をしたいと思っております。

また、クラブスタッフ、選手、関わる一人ひとりが生き生きとして、安心して働ける、そしてプレーができる環境を整備して、そうした個々の成長がチームとクラブの成長に、そして成果につながると思っていますので、そうしたクラブ経営に取り組んでまいりたいと思っております。

人権、セーフガーディング、ウェルビーイング、そうしたキーワードが非常に重要で、私たちが日々考えなくてはならないキーワードと認識しております。本当に心身ともに充実して、やりがいを感じ、幸せを感じながら成長できる職場づくりができるように、再発防止策も含めて継続的に実施して検証し続ける、そうした経営をお約束したいと思っております。

今回の件で失った信頼は一日も早く取り戻せるよう、クラブ一丸となって再発防止と体制強化に取り組んでまいりますので、引き続きサポート、応援、厳しいご指摘よろしくお願いたします。本日はありがとうございました。